

Title	豪徳寺猫塚の由来
Sub Title	
Author	宮島, 貞亮(Miyajima, Teisuke)
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.2 (1928. 7) ,p.146(300)- 146(300)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19280700-0146

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

豪德寺猫塚の由來

世田ヶ谷豪德寺の鬱蒼たる境内に猫塚なるものがあつて、花柳界關係者の杖を曳くものが頗る多い。今茲に口碑を參考とし、猫塚の由來を述べることにする。

豪德寺は大阪落城當時、弘德庵と稱し、頗るささやかなものであつたらしい。或日一匹の猫がまひこんで住職に懐いたが、住職も之を非常に愛撫した。住職の讀經の時にも、法話の時にも、此猫はさも解るやうに傾聴したため、住職は益々之を大切にした。或大雷雨の日、猫の行方が不明になつたため、住職が心配してゐると、全身濡鼠となつた猫が、門の所から幾度も後を振り返りながらやつてくる。

其後から立派な武士が一人、馬上に跨つてやつてきた。そして其武士は此庵で雨宿りをしたが、雨は中々止まない。其間武士は住職と雑談に耽つたのであるが、彼は住職の高潔なる人格と、深奥なる學識とに、傷く感動し、彼は非常に住職を信仰するに至つた。此武士こそかの大阪陣に驍名をさせた井伊直孝である。爾來これが縁となり、度々弘德庵を訪れ、遂に此寺を井伊家の菩提所とした。直孝はかの猫を介して、此寺と密接なる關係を結んだため、之を非常に愛撫した。其關係で猫も此寺に葬らるるに至つた。直孝の墓の背後に「猫之墓」と三字刻つた小さい墓石がある。これが所謂招き猫の墓である。花柳界と縁のあるのも怪しむに足りない。因に直孝の死後、其法名「久昌院殿豪德天英大居士」の豪德をとり、弘德庵が豪德寺と改稱されたといはれてゐる。